

## 令和5年度 第2回苫小牧市スポーツ推進審議会結果報告書

【日時】 令和6年3月21日（木）18時00分～19時10分

【場所】 市役所5階 第2応接室

【出席】 ▽苫小牧市スポーツ推進審議会委員 8名（12名中）

本間会長、中村副会長、石田委員、鈴木委員、中田委員、藤岡委員、米山委員、林崎委員

▼事務局（市）

・総合政策部：柴田参与

・スポーツ都市推進課：畠山課長、榊田課長補佐、奥井主査、寛那見主査、丸谷主事、石山主事、石川主事、寺谷主事、大上主事

～～～議事内容（審議経過・意見・質問等）～～～

1 開会

2 会長挨拶

3 議事（進行：本間会長）

以下の質疑・意見について、▽は委員発言、▼は事務局発言

(1) 苫小牧市スポーツ推進計画施策事業について 【資料1-1】

・No. 2 ウォーキング事業の開催 【資料1-2】

・No. 42 パラスポーツ体験会 【資料1-3】

※ 事務局から説明

### 【質疑】

▽本間会長

米山委員は大学で「運動と健康、栄養」等を専門に従事されている中で、No2ウォーキング事業に取り組めるような事例や、他の自治体と協力されている事業等があればお聞きしたい。

▽米山委員

自治体と連携して食育活動や健康事業について、大学敷地内を活用して実施している。

また、恵庭市もウォーキング事業に取り組まれており、ウォーキングコースのPRを実施している。

▽本間会長

ウォーキング事業に座学的なことを組み込んで良いかと思うが、今後、事務局の方で検討していただきたい。

▽本間会長

No.42パラスポーツについては、今年度、新たな取り組みの結果、参加者が倍以上になったが、本事業は、障がい者と健常者が共に楽しめる貴重な機会だと思う。

石田委員にお聞きするが、学校等でこのような取り組みは行われているのか。

▽石田委員

以前勤務していた厚真町の厚南中学校では、脊椎を損傷した生徒が自らパラスポーツの機会に応募して、現在カーリングに取り組んでいる例もある。

ボッチャ等も私の出身大学に代表の方が来られたことがあるが、すごく生き生きと取り組んでいた。スペシャリストを招いてメディア等を活用すれば、さらに盛り上がると思う。

▽鈴木委員

車いすソフトボールは、以前、北翔大学の西大氏が取り組んでいて、千歳で大会を開催し、私も手伝ったことがある。健常者がメインでやっていた頃もあったが、障がい者と健常者が一緒に競技ができるのは良い機会だと思う。今後、更なる周知や体験競技も増やす等して取り組んでいけば良いと思う。

特にパラスポーツの水泳選手の運動神経には感銘を受けたことがあった。そのような方をゲストに招く等しても面白いと思う。

▽中村（峰）委員

以前、沼ノ端小学校の出前講座で、車いすバスケットボールがあったが、児童は難しそうだったが、楽しそうに取り組んでいた。ボッチャも子どもからお年寄りまで楽しめる競技で、交流もできて良いと思う。

(2) 苫小牧市スポーツマスター事業について **【資料2】**

※ 事務局から説明

**【質疑なし】**

→検討部会の設置を承認

検討部会には以下の4名の委員を会長が指名

- ・ 部会長 石田委員
- ・ 部員 中田委員、中村（峰）委員、林崎委員

(3) 苫小牧市スポーツ施設整備計画について

【資料3】

※ 事務局から説明

【質疑】

▽本間会長

スポーツ施設のネーミングライツや広告収入は市の貴重な財源となっているが、中田委員は、ご自身の会社で広告を出されたことはあるか。

▽中田委員

スポーツ施設等に出したことはないが、港まつりなどのイベントには協賛広告として出したことがある。また、過去に会社名が掲載されたテントを貸したことがあるが、以外にも、それが思わぬ広告効果となった。広告＝お金ではなくても、協力できることがあると思う。

▽鈴木委員

初歩的な質問ではあるが、ネーミングライツと広告収入の違いは。

▼畠山課長

ネーミングライツは、その施設のための財源として、積み立てることができ、修繕に充てることができる。広告収入は、事業費の財源として活用しており、主に氷上スポーツ育成事業等に充て、子供たちのアイスホッケーやスピードスケートスクール等の氷上競技の振興につなげている。

▼榊田課長補佐

ネーミングライツは施設そのものの愛称として設定できるものであり、愛称が大会要項や観光パンフレット等の刊行物にも掲載されることから、企業そのもののPRにもなる。

(4) 苫小牧市総合体育館の整備について

【資料4】

※ 事務局から説明

【質疑】

▽本間会長

総合体育館の整備を計画通りに進めるのは厳しく、改修費の高騰等も含め大変だとは思いますが、建て替えまでは現在の総合体育館を修繕しながらという形になるのか。

▼畠山課長

その予定であり、現状は床の修繕の優先度が高いと考えている。

▽本間会長

新総合体育館建設費が当初予定の60億円から90億円になったことで今後、慎重な判断が必要とのことだが、当初の60億円に縮小して建て替える案はないのか。

▼畠山課長

今後の人口減少等も考慮しながら、キャパも検討していく必要はあると思う。

▽藤岡委員

建設費や駅前整備の計画もあり、大変だと思うが、早急な建て替えが必要だと思うし、駅前整備と合わせて見極めながら進めていった方が良いと考えている。

個人的には、プロのバスケットボールやバレーボールの試合にも対応できる等して、規模は縮小しないでもらいたいと思う。

▼柴田参与

総合体育館は50年が経過し、令和3年の施設整備計画のとおり建て替えは決定しているが、整備するには5年、10年スパンで考えていかなければならない。今後の物価変動もあるので、その辺りの見極めが難しく、立ち止まっている状態。

まずは、駅前整備と物価高騰、これらを見極めながらになるが、今は結論を出せる状況ではない。

▽藤岡委員

人材不足、人件費の高騰も深刻であり、それらを踏まえると更に建設費が上昇していくことも考えられる。

▽中田委員

苫小牧は陸、海、空の全てがそろった非常に立地条件の良い街。集客できる街であることから、しっかりとした整備を行ってほしいと思う。

▼柴田参与

各委員の意見を踏まえ、今後の審議会でも説明をさせていただく。

4 その他

※ 事務局から次回審議会の日程を説明（令和6年6月開催予定）

5 閉会